

市民の期待を担う！ 新市議会議員16人の抱負

4月の市議選は、1954年（昭和29年）の市制施行以来初の無投票となりました。市の将来を語る立候補者の声が聞けなかったという市民の声に応え、新市議16人に、今期4年間の抱負を聞きました。（敬称略、丸数字は当選回数、掲載は右から縦に議席番号順）



野口 義光 ②
(北多久町)

市民生活環境の課題解決のため関係行政機関また当事者と会い、先進事例を調査し、自分の目で確かめ、自分なりの見解を持ち、我が市の産業振興、農業発展、福祉の充実を柱に現在生活されている市民の皆さまが「住み慣れた地域で安心して住み続けることができる地域社会の実現」を目指し、更なる発展に取り組みます。



國信 好永 ③
(東多久町)

人は多久市の活力源。人が減少すれば商店がダメになる。買い物が不便だと人は外に出る。家賃の安い新婚向けの市営住宅を100戸造れば200人が入り、子どもが3人でできれば500人の町となる。建設費は家賃と国からの交付金で、10年間で元が取れる。人口減少の歯止めにはこれしかない。市税の増加にもなる。是非実現したい。



飯守 康洋 ⑤
(西多久町)

「皆さまが多久市の主人公です。皆さまの福利の増進で、当たり前が暮らしが出来ますように。次世代が希望を持てる多久市に。地方創生で、人づくり・町づくりを。民、信なくば立たず」これを「私の信条」として、またあったかい心で、責任と情熱を持って多久市が、輝く、ように議員としての活動をします。



田中 英行 ⑤
(北多久町)

時代の変革に伴う諸問題に迅速に対応し、住民意思を的確に行政に反映させるため、これまでの人との交流、経験を踏まえ、今後一人ひとりに誠意を持って接し、皆さまに学び、皆さまと共に考え、地方の時代と言われる21世紀を創造したい。政治を身近なものにし、豊かさを実感できる多久市の実現に力を尽くす所存です。



野北 悟 ③
(北多久町)

「住みたいまちづくり」の実現を目指します。①高齢者世帯の見守り体制の充実を図り、安心に暮らせるまちづくり。②空き家条例を活かして土地の有効利用を進め、人口減少に歯止めをかける。③子ども達の基礎学力の向上を図り、愛郷心を持ち自立して生活できる人間を育てる教育を実践する。



中島 慶子 ④
(多久町)

少子高齢化の加速で、自治体力や経済活力の低下が懸念されている。改善に心血を注ぎ、力を置いて介護や福祉の充実・健康安心施策、更には夢の持てる安心の子育てができる環境整備。仕事との両立支援の充実向上を図り、子ども達の未来と市民みんなの明日のために、真心と情熱を持って取り組んでいきます。



服部奈津美 ①
(南多久町)

母から「住民こそ主人公」という思いをバトンとして受け取りました。私自身、母親になって1年、子ども達の幸せな未来を守っていきたく強く思うようになりました。孫としての目線、子どもとしての目線、母親としての目線で安心して住み続けられる多久のまちを目指して頑張っていきたいと思っております。



樺島永二郎 ①
(東多久町)

今を生きる私たちは、今を未来へ繋ぐなければなりません。「人を活かす」「地域を活かす」「自然、文化を活かす」今までにない、新しい視点に立ち、この3つの「活かす」で町と人の魅力を引き出し、今を生きる私たちが、次の世代に誇りを持って引き継いでもらえる、今よりもっと住み良い町を目指して全力で取り組んでいきます。